



2019年度 付中通信第13号

オンライン授業

2020.3.31

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

⇒宮本先生

こんにちは

高水も休校になったと聞きました。

こちらでは、関係者（教職員、生徒、父兄）に感染者がでていいる学校は休校になってますが、それ以外の学校は首相の通達により普段通り授業をしています。

ただ、3割強の生徒が親の判断で自宅に籠っているのが現実です。

そのため、私ども教員は登校してくる生徒とそうでない生徒の両方向けの教材を準備しないとイケないので、普段より忙しくなっています。

生徒たちは全員学校にメールアドレスが登録してあるので、登校しない生徒にはメールにファイルや教育サイトのリンクを貼って送るわけです。

また、いつ首相や教育省から「休校せよ」とのお達しがあるか分からないから、そうなった場合を想定してオンライン授業および教材の準備もしています。

日本は年度末に休校ということでこちらとは状況が違いますが、オンライン教育事情はどうなっているのでしょうか？

追伸：外出禁止令が発令されたカリフォルニアで教員をやっているアメリカ人の友人も、オンライン授業をしているそうです。

以上のメールをオーストラリアで小学校教員をしている卒業生から受信したのは、3月21日のことでした。私は、わざわざ外国のナマの状況を知らせてくれた彼の気安さに感謝しつつ、日本と高水の現状を報告しました。

⇒〇〇様

こんにちは

〇〇君からメールをいただいて、

国境を越えて同時に同じ問題について、対策や現状を報告し合うなんて、国家の首脳でもないのに、おもしろい現象だと感じています。

そういう意味では人とウイルスとの、まさに戦争なんだとも思います。

それから、もし人間同士の戦争が起こりそうになっても、インターネットによって、こんなふうに個人同士で共通理解の輪を広げられたら、前の大戦みたいな国家的規模での洗脳は起こりにくいだろうとも、考えたりしました。

ところで、本題に入りますが、

ご存じのように日本の学校教育界は、世界に名立たる発展後進国です。一部の先進的で裕福な私立学校や一部の高いスキルと個性を持った教員によるオンライン授業は実施されて

いますが、それはあくまでも例外的と言えます。

本校も然（しか）りです。

ただ今年の中1からタブレットを個人所有させているので、遠隔操作によって課題を与えたり質問に答えたりということはしています。

（中略）

まあ、ヨーロッパ諸国と比較すると、確かにハグの習慣がないというのがありますが、日本人は言われたことをまじめによく守っているということが、死者の少ない一番の要因と思われるですね。

新型コロナウイルスの恐怖は、ヨーロッパと北米でピークに達しつつあるように見えます。恐怖SF映画の一場面のような報道動画が毎日のように送り出されてきます。世界大戦や巨大地震が起こった時と同じような状況が地球的規模に広がっていて、まさに人類である限り無関係と言える人が誰もいない、人類始まって以来の未曾有の体験を世界中の人々が同時にしているのだと言えます。対岸の火事は完全に燃え終わり、すべてが隣の火事となっているのです。

しかし、こんな時に露（あらわ）にされなくてもよかったのに、どうしても目立ってしまう日本の教育の現状というものがあります。義務教育では一人一台のタブレットを整備する方針がつい先ごろ政府から示されたばかりでしたが、残念ながら間に合いませんでした。

オンライン授業ができない先進国は日本だけなのです。

これも大学入試改革が頓挫（とんざ）してしまった日本の教育の延長線上にある、とりわけ国民が無頓着な授業の実態なのだと私は思います。恥ずかしさを感じるようなことなのかどうか、それすらわからなくなっていますよね。